

## 課題

## 1. 急速な読書環境の変化による課題

コロナ禍による生活様式の変化により、子ども達を取り巻く読書環境が加速度的に変化し、子どもたちの読書経験に影響している。

- ①電子書籍等の導入傾向とスマートフォン・タブレット等の普及による読書環境のデジタル化が急速に進んでいる。
- ②「子どもが本を手にする環境」は、家庭の経済格差等による影響が大きくみられる。  
子どもが本に出会う環境の充実のために、家庭はもちろんのこと、それ以外の子どもが日常的に過ごす場所（幼児教育現場、学校図書館、児童館や公共図書館等）での、より一層の充実が必要である。

## 重視項目

## 2. 読書推進のための「読書環境構成のデザイン原理」

時代が大きく変化しても、「読書」が子どもたちの学びの世界を広げ、深く考える機会を与え、生涯にわたり学び続けるための学び方の一つであることは変わらない。第2次計画の3つの基本方針に加えて、「読書環境構成のデザイン」をあらためて意識し考えていく必要がある。

## 「子どもの読書環境構成のデザイン原理」

教育学者 秋田喜代美氏

(東京大学大学院教育学研究科長)

「OECD Education2030」※を参考にした秋田氏による読書環境デザイン原理

※世界50か国以上の国が2030年未来の教育を考えるプロジェクト

「秋田喜代美（2020）『デジタル時代における絵本・本の価値を探る～子どもたちの豊かな読書環境を目指して～』

CEDEP2020年12月オンラインシンポジウム指定討論資料」より

## ◆1冊の絵本・本の中で◆◆◆◆

1. 共同注視：一緒に一冊の絵本・本の中で眼差しを向け、子どもの表情をとらえて目線をあわせよう。
2. 聴きあう：子どもの発するつぶやきや声を丁寧に聴くことで安心・安定の時間をもとう。
3. 夢中：子どもが夢中になっていることに心を向け、一緒に楽しもう。

## ◆繰り返しの経験の中で◆◆◆◆

1. 忘れられない経験：好きな絵本・本は繰り返し読むことで忘れられない1冊になります。
2. 良質な作品との出会い：読み継がれてきた絵本・本との出会える機会を準備しよう。
3. 主体的選択：どんな小さな子どもでも自分で選ぶからこそ、そこに見たい 聞きたい という気持ちが生まれます。  
子どもの意思を尊重しましょう。

## ◆園・図書館の空間を超えて◆◆◆◆

1. 読む、表す、関わるなど真正な絵本・本をめぐる活動への参加：本を読むだけではなく、そこから自分でも絵本・本を作ってみたり、劇遊びをしたり、仲間同士でお話の世界と一緒に遊ぶなども大事な経験です。
2. 柔軟な流通と交流：絵本・本は園や図書館だけではなく、絵本・本の団体貸出やリサイクル、地域医療や保健所、子育て支援センターなど様々な場で、ご家庭や地域でも子どもが絵本・本を介した輪ができるようにしていきましょう。
3. 人がつながりあう：ボランティアで絵本・本を読み合ったり、本を介して子どもも大人もつながりあいましょ。

## ◆皆で活動へ参画◆◆◆◆

1. 笑顔の輪が広がり力が生まれる：子どもの笑顔、絵本・本に関わる大人の笑顔が絵本・本の楽しさの輪を作り出します。
2. 共同主体性：お互いの楽しさ、ワクワク感がそれぞれの気持ちをエンパワーします。皆が自分事として楽しめる場作りが大切です。
3. 居心地：どんな人も排除しない、認め合い受け入れ合う場、心身ともにくつろげる環境だから安心して夢中になれます。